

鶴瀬西交流センター 開設20周年!



☆富士見市☆
マスコットキャラクター
みかわぴー

～今月の特集～
神社・仏閣めぐりは
いかがですか

第208号(12月号)2025.12.1

編集：鶴瀬西交流センターだより編集委員会

発行：富士見市立 鶴瀬西交流センター

〒354-0021 富士見市大字鶴馬 3575-1 TEL:049-251-2791 FAX:049-255-9707

地域の百景 78

夕暮れ時、散歩をしてみると、ぱっと丸い白いものが田に留まつました。西中学校の門の中の綿の実でした。お邪魔して写真をとらせてもらいました。

なぜ学校で綿が栽培されているのか、これかわりのように活用されるのだとさっかと気になりました。のちに校長先生にお会いしたときにお聞きしましたが、量も少ないので、特に活用は考えていないということでした。

でも、生徒たちのはしの綿の実から、どうで綿が多く作られ、どんな過程を経て綿製品がつくられるのか、自分の身近にどんな製品があるのか、いっぱい想像してくれることでしょう。

綿の実はじか



鶴馬地域は、武藏野台地縁辺にありかつ小河川に削られた斜面が多いため、多くの湧水があります。一説には、水流(つる)が鶴に転じたとか。

江川が流れる関沢のハケ(はけ)上を訪れました。ハケとは湧き水の意だそうです。東上線沿いの急坂を下ったガード辺り(写真中央)にかつて水場があり、縄文草創期から人が住んでいたとのこと。

獣の処理や洗い物に使える川も併せれば、上下水道完備の

好立地。ここから出土した土器や石器、なかでも耳飾りや装飾品を見ると古代の

人々が水とともに豊かな生活を営んでいたことが偲ばれます。戦中まで水車が稼動していたことから、連綿と続く水と人との関わ



りが伺えます。江川では今も護岸や川底から水が湧いており、遙か水の流れを見ることができます。(出井)



東上線沿いの急坂

まちかどウォッキング

まちかど
ウォッキング